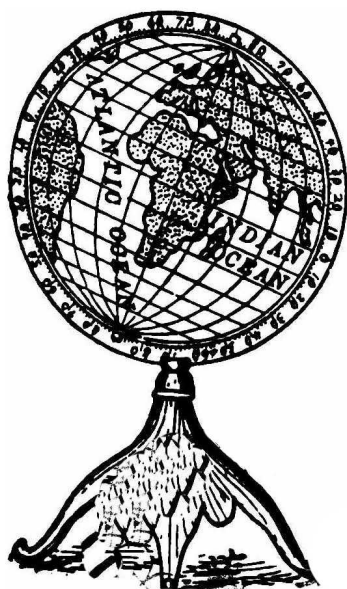


トットちゃんの
カルチャーショック

CALIFORNIA		Miles	\$1.50
COLORADO	36x26	12	1.25
FLORIDA	36x48	10	"
ILLINOIS	35x55	8	1.50
INDIANA	28x42	8	1.25
INDIAN TERRITORY	34x26	12	"
IOWA	48x36	8	1.25
KANSAS	56x32	8	1.25
MICHIGAN	41x58	8	1.50
MINNESOTA	40x56	8	1.25
MISSISSIPPI	51x58	7	1.25
MISSOURI	48x40	8	1.25
MONTANA	38x25	16	1.00
NEBRASKA	61x34	8	1.50
NEW ENGLAND STATES	41x58	10	"
NEW MEXICO	30x26	18	"
NEW YORK	34x31	10	"
NORTH DAKOTA	50x36	8	1.50
OHIO	51x44	6	1.50
PENNSYLVANIA	40x25	8	"
SOUTH DAKOTA	52x36	8	1.50
TENNESSEE	58x24	9	"
TEXAS	63x46	15	"
UNITED STATES	66x46	45	"
WASHINGTON	60x41	8	1.50
WEST VIRGINIA	44x38	7	"
WISCONSIN	41x58	8	1.25

トちゃんのカルチャーショック

黒柳徹子の
新・海外生活読本



トットちゃんの カルチャーショック

黒柳徹子の新・海外生活読本

昭和59年 4月10日 第1版 第1刷発行 定価980円
昭和59年 5月10日 第2刷発行

著 者 黒柳徹子 監 修 飯沢匡

© Tetsuko Kuroyanagi 1984

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
出版者 相賀徹夫 電話：編集 03-230-5585
業務 03-230-5333
発行所 株式会社 小学館 販売 03-230-5739
振替・東京8-200番

印刷・大日本印刷株式会社
製本・俣若林製本工場

ISBN4-09-396071-2

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁、乱丁などの不良品がありましたらおとりかえいたします。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作権および出版者の権利の侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

カトル
ツト
チャ
ー
シンの
ヨの
ツ
ク

黒柳徹子の
新・海外生活読本

小学館

はじめに

私が最初に「カルチャーショック」というようなものを味わったのは、今から二十五年くらい前、はじめてアメリカに行つたときでした。ショックは、行きのアメリカの飛行機の中で、すでに始まりました。スチュワード스에用事があつた私は、通路を通りかかった金髪のスチュワードスを、「ちよつと……」と呼びとめたんです。すると、その人は、ニッコリ笑つて、「バイバイ」と、愛想よく手を振つて行つてしまいました。（まあ、用があるのに、どして行っちゃうのかしら？ それにしても、バイバイなんて……。そう思った私は、また、そのスチュワードスを通りかかったとき、「ちよつと……」と呼びました。すると驚いたことに、その美しい人は、また、「バイバイ」と、これ以上ニッコリできないくらい笑顔の私に向けると、手を振つて行つてしまいました。

私には、わけが、わかりませんでした。（一体、これは、どういうことかしら……。）。私は、外国の人が、どうやって呼ぶか観察してみることになりました。運のいいことに、私の一つ前の男の人が、手をあげて、むこうにいるスチュワードスを呼びました。すぐ、スチュワードスは寄つて来て、「なんのご用でしょう？」といいました。そのとき、私は、やっと、わかつたんです。私たちは人を呼ぶとき、手の甲を自分のほうにむけて、「おいで、おいで」の形で人を呼びます。でも、これはアメリカでは「バイバイ」なんです。呼ぶときは、手の甲を相手のほうに向け、「おいで、おいで」をするんです。なんだか、自分のことを自分で呼んでるみたいですけど、そうするとスチ

ユワーデスは、すぐ来てくれるんです。

（こんな、手の向きという小さな違いが、結果は、反対の意味になつてしまう……）。

私は、とても驚きました。むしろ、「おいでおいで」ふうのことを一切しないで、人さし指を立てて、手をあげてる方が、注意を引くので効果的だ、ということも、そのとき、発見しました。最近では、日本でも、若い人は、このアメリカ式の「カモン!!」というゼスチュアで、人を呼ぶのが、当り前のようになつてきました。この間などは、テレビの時代劇で、チョンマゲの人が、これをやつていたくらいですもの。

それにしても、あのとき、スチュワーデスは、心の中で私のことを、（ヘンな日本の女の子！）と思つたことでしょうね。せまい飛行機の中で、通りかかるたびに、「バイバイ」と、やるんですから。あの異常なまでの、彼女の愛想のよさを思い出すと、私は、ご迷惑をおかけしたと、申しわけなく思うのです。もちろん、その後も、どのくらいカルチャーショックを受けたか数え切れません。

そんなことから私は、外国の「文化^{カルチャー}」というものに、とても興味を持ちました。「文化」というと、若いときは、芸術的なもの……例えば、音楽や絵や文学、演劇といったものことだと思つていました。でも、本来の意味は、「穀物や動物の手入れ」という意味から出ていて、人間が、社会から習い^{まな}覚えた生活の仕方の、呼び方なんです。どんなふうにして、ものの考えかた、美しさを育てて来たか、という仕組みを表すのが文化なんです。とにかく衣食住の「暮らし^{くらし}」から始ま

って、学問、技術、芸術、道徳、宗教など、人間の、あらゆる生活様式を指すのだ、ということが、段々と、私にも、わかってきました。

そして、この数年前から、「カルチャーショック」という言葉が、流行語のようになってきました。「文化の違いにショックを受ける」ということでしょうか。私の外国人の友達も、日本に来て、みんな、この言葉を連発しています。私は、そのたびに、何にショックを受けたのか、根ほり葉ほり聞くのです。それは、私にとつても、同じように、ショックであるはずだからです。

この本は、そんな私の、知りがりの気持から出たものです。この本のために、わざわざ、私の大好きな尊敬する方々に、おいで頂き、おはなしを伺いました。そして、目次にあるような項目に沿って話して頂くように、おねがいましたのです。ありがとうございました。それから、国際的視野と感覚をお持ちの、劇作家の飯沢匡先生に、監修をして頂きました。お礼を申しあげます。

世界は大きく、文化もまた、無限です。でも、それぞれの国には、長く続いてきた、その国独特の文化があるのだ、と知ることが大切だと思います。そして、それを理解するだけでなく、それを尊敬しなくては、お友達には、なれないでしょう。そんなふうに思っていれば、外国に行っても、外国人とお話をしても、何も、こわいことは、ないと思います。日本は、これから、ますます、国際的になっていくのは、間違いありませんものね。

楽しい表紙などの装幀を下さった和田誠さんにも、お礼を申し上げます。考えてみると、和田さんは、イラストレーターだけど、外国映画の大先生でもあるから、カルチャーショックは、

随分、受けていらつしやるでしょうね。それから、この本のための対談の段どりとか、いろいろ忍耐よく協力して下さった女性セブンの山田義知さんも、ありがとうございました。

この対談の終わりの頃、私は、ユニセフ(国連児童基金)から、「親善大使に任命します」という正式の、お話を頂きました。さしあたって、年間で一千五百万人もの子供たちが、世界中で飢えと、飢えから来る病気で死んでいる、ということをも、みなさんに知って頂くことです。日本は、乳幼児の健康第一位という、世界に誇っている国、つてことも、今度知りました。この夏には、まずアフリカに行つて、実際、自分の目で、そういう状況を見てくることになると思います。

どんなカルチャーショックを、受けるのでしょうか。

一九八四年・春

もくじ

トットちゃんの カルチャーシヨック

黒柳徹子の
新・海外生活読本

はじめに……………

3

1 ヨーロッパでは、列車の中の食事もフルコース!?

旅はふだん着のままで

玉村豊男……………

11

● バカンス上手なヨーロッパ人……………12

● 恐るべき万引対策……………18

● 傍若無人な日本人旅行客……………26

● 泥棒にはくれぐれも注意……………35

2 日本人は、なんで旅をすると大声を出したり、走ったりするんでしょう?

マナー知らずは恥知らず

犬丸一郎……………

45

● 外国では外国の習慣に従おう……………46

● フランス人が香水を好きな理由……………57

● 映画館の案内人にもチップ……………62

3 ただのあいさつに、どうして抱き合 とつつきが悪いフランス人
クロード・チャリ 73
つてキスまでするのでしょう？

- 「芸能人って何ですか」と言われる.....74
- 日本は別の惑星だと思われる.....85
- レストランの伝票は必ず確かめて.....80

4 外国では、子供にも責任ある仕事を 幼い頃から働く子供達
田沼武能 95
任せるのね

- イスラム教国で女性は顔を見せない.....96
- サンタクロースのいいつけは守る.....108
- みんな小さい頃から働く.....103

5 西洋の家つて、どうしてあんなに鍵 広くて重い西洋の建物
磯崎新 121
ががんじょうなんですか？

- 皿洗い機はあってもポットはない.....122
- 個々の建物より町全体のイメージ.....138
- パーティーは重要な社交の場.....132
- ダブルベッドで夫婦愛を確認.....145

6 メキシコ人つて、みんな昼寝ばかり 世界中が同居しているメキシコ
黒沼ユリ子 151
しているなまけ者なのかしら？

- 首都メキシコシティの人口は世界一.....152
- 家庭内では女が強い.....170
- 男女の区別がはつきりしている.....158

7 アメリカやヨーロッパには、本当に
アメリカの教育
学生の浪人がいないんですか？
マリオン・プレキシコ……………175

●大統領に手紙を書くアメリカの子供……………176
●教師になるため一年近く実習する……………188

●父親の役割が大きい……………180

8 どうして、ガラスの腕輪をいつもい
つもしていらつしやるんですか？
タブーだらけのインド
レヌ・アロラ……………199

●生理のときは台所に入れない……………200

●辛いのが本当のカレーじゃない……………208

9 アメリカでは家庭の奥さんでも、芝
居やミュージカルに詳しいんですね。
ブロードウェイから町ができた
大平和登……………221

●評判が悪いと一日で上演中止……………222

●先生と生徒が対等……………228
●舞台装置を見ただけで拍手をする観客……………231

●ブロードウェイを中心に町ができていく……………234

10 こんな豊かな時代に、飢え死にする
子供が、なぜ大勢いるのでしょうか？
悩める大陸——アフリカ
大瀬貴光……………239

●全人口の三分の一がマリアにかかると……………240
●どっちが本当の幸せなんだろう……………256

●救済はまだ始まったばかり……………261

1

ヨーロッパでは、列車の中の食事もフルコース!?

旅はふだん着のままて



たまむらとよお
玉村豊男

エッセイスト

1945年東京生まれ。
東京大学仏文科卒業後、
パリ大学に留学。旅行・食
べものなどに関する著書
・訳書が多い。現在も世
界各地を飛び回っている。
軽井沢に在住。

パカンス上手なヨーロッパ人

黒柳 外国旅行、お料理、フランス文学などでご専門の玉村さんですけど、私、旅行していろいろびっくりすることが多いんです。ローマからナポリへ行く汽車に乗ったときのこと……この汽車には食堂車がなかったの。でもね、ご飯食べたいと車掌さんにお願ひしたのね。すると、私の座っている席のところに大きなテーブルがばーんと出て、それにテーブルクロスをかけて、蝶ネクタイをしたボーイさんが次々と料理を持って来るんです。

玉村 自分の座っているところで食べるというのはそれほど一般的な例ではないですけども、ちょうど食事時間にかかるような列車で、二時間以上の行程こうていがあるところでは、食事をちゃんとする場合が多いですね。食堂車できちんとフルコースを食べます。乗ったらすぐに食べ始めて、食事が終わったらすぐに降りるとかね、そういうこともあります。あるいは三時間ぐらいのところだと、サービスが二回に分かれていて、ボーイが客席に、前の組がいいか、後の組がいいか聞きに来るんですよ。前の組を選ぶと、行つてすぐに食べ始めなければならぬ。

だからもう、乗っている間、めいっばい食べているわけですよ。ただ、最近、少しずつせちがらくなつてきて、だんだんそういう優雅ゆうがなのが減つて自分の席に機内食みたいなセットされたものがぼつと持つて来られるというようなシステムに、フランスなんかはなりつつありますけれどもね。

日本人というのは、列車に乗るとなにか口寂しくておせんべいを食べたり、おにぎりを食べたり、のべつまくなしに食べますでしょう。おやつも食事も区別なくね。日常の食生活もそれに近い。それに対して向こうの人は、食べる時にはちゃんとフルコースを食べる。それ以外のときは何も食べない。そういう人が多いのね。

イタリアの一部では駅弁みたいなのがありますが、他の国は大体駅弁がないでしょう。だから、食事をするときは食堂車か、自分の前のテーブルでちゃんとフルコースを食べる。でないと食事じゃないのですね。

黒柳 本当に、日本人はそくさと食べるのね。駅で立ち食いそばがあつたり、新幹線にもビュッフェとか。でもヨーロッパの人はきっちり時間をかけて食べたいようですね。

玉村 そうですね。そうじゃないと食事をした気分にならない。

*

黒柳 わたしたちはバカンスなんていうと、なんか、お金持ちの特別なことだと思うけど、ヨーロッパじゃ本当にお魚屋のおじさんだつて、八百屋のおばさんだつて、みんな家族でバカンスを楽しむのね。

玉村 バカンスというのは、要するになにもしない空白、というわけ。だから、それにかけるお金の多寡じゃないんですね。バカンスっていったって何をするわけじゃない。どこか田舎の汚いところで、ただ二十日間とか、四週間とか、過ごすだけ。それがバカンスなんですよ。日本人は

どうしても、何かやらなきゃいけないとか、お金をかけなきゃいけないと思うから、なかなかそういう時間をとることが出来ない。

黒柳 本当にそうですね。日曜日、ちよつとした森みたいところの道端に、みんな腰をおろして、何か話して……。お茶なんか飲んでるんですね。

玉村 わりあいそういうの好きですよ。だから、しょっちゅう優雅に遊んでるように見えるけれども、決してお金をかけていないし、何ていうことはないんですよ。うちで食べるパンを外に持って行って食べるだけの話なんです。そういうふうな、同じひとつのパンを食べるんでも雰囲気ふんいきを違えて楽しむわけ。生活を楽しむ方法を知っているという意味では、かなり経験豊かというか、われわれより上手ですね。

たとえば南仏の、コートダジュールとか、あの辺のホテルに行く人というのは今でも、ごくひとにぎり、たいていは田舎のおばあちゃんのうちへひと夏を過ごしに行くとか、あるいは、若い人の場合、キャンピングカーで行ってテントを張るとか、そのくらいのもですよ。

三週間なり四週間なりそこにて、毎日そこでご飯をつくって食べて、ただ本でも読んでいて仕事をしない、というだけの話で、同じ日常生活をやっているわけですからね。

黒柳 でも、どこかに行くのね。

バカンスの季節になるとヨーロッパの都市では芝居やなんか、全部休演になっちゃうのがすごいですね。